2017
vol.56
no.6

写真測量とリモートセンシング

小特集　「水域の計測技術の進展」

目　　次

〈巻　頭　言〉第４次産業革命を牽引するための研究スタイル　田中成典　281
〈カメラアイ〉大型除草機械によるモグラ（小動物）穴の面的検出システム
関　晃伸，鈴木　清，杉山史典，伊藤優美　282
〈小　特　集〉「水域の計測技術の進展」　284
〈原 著 論 文〉近赤外・短波長赤外・熱赤外観測チャンネルを利用した
SGLI 向け森林火災検知アルゴリズムの開発
三浦高史，森山雅雄　307
〈海外とびある記〉第38回アジアリモートセンシング学会（ACRS2017）に参加して
－インド・デリーで感じた文化交流のあり方－　佐相駿実　322
〈海外とびある記〉第38回アジアリモートセンシング会議（ACRS2017）に参加して
四宮結実　324
〈活 動 報 告〉G 空間 EXPO2017シンポジウム
「地球観測の科学利用と実利用の新たな展開」の開催　福田　徹　326
〈活 動 報 告〉第38回アジアリモートセンシング会議（ACRS）報告　長　幸平　328
〈活 動 報 告〉平成29年度秋季学術講演会　報告　望月貫一郎　332
〈活 動 報 告〉北海道支部活動報告・北信越支部活動報告・関西支部活動報告　346
〈活 動 報 告〉東海大学情報技術センターが海上保安庁長官表彰を受賞　352
〈文 献 抄 録〉地図作成に見る世界最先端の技術史
－世界のトップを走り続けた中国－　大山容一　353
〈文 献 抄 録〉Make Your Own Neural Network　落合健太　355
〈2017年号（Vol. 56）年間総目次〉　357
〈会のうごき〉　360
〈投稿要領・執筆要領・原稿送付状〉　361

表紙説明：WorldView－３衛星は，米国 DigitalGlobe 社によって2014年８月13日に打上げられ，現在運用が続けられています。この衛星には，可視近赤外センサに加えて短波長赤外域 SWIR の８バンドセンサが搭載され，リモートセンシング分野での新たな利用が期待されています。表紙は，2015年６月15日に，SWIR で茨城県つくば市付近を観測した画像です。本来の空間分解能は直下で3.7m ですが，公開画像は米国政府の規制で7.5m となっています。SWIR－１（1195–1225nm）を緑色濃淡，SWIR－８（2295–2365 nm）を赤色濃淡で色合成したものです。SWIR－１は，近赤外との境界帯域で，植生を強く反射し，SWIR－８は土壌を強く反射し，土壌に水分が多いと反射が低下する特性があります。画像内の裸地や畑地は茶色の色調で表現され，場所により微妙に色調が変化しているのが確認されます。また水田地帯は暗い緑で表現され，水田区画内の濃淡の差は，水稲の生育状態の差異を反映していると推測されます。
企画製作：長岡技術科学大学 力丸厚，©DigitalGlobe/画像提供：日本スペースイメージング

本学会のホームページを開設いたしておりますのでご覧下さい。

http://www.jsprs.jp

E-mail：office-jsprs@jsprs.jp

編集委員

委員長　織田和夫　（アジア航測（株））
委　員　浅沼市男　（東京情報大学）
五十嵐保　（リモート・センシング技術センター）
石塚直樹　（農業・食品産業技術総合研究機構）
今井靖晃　（国際航業（株））
木寺幸司　（日本測量協会）
鈴木英夫　（朝日航洋（株））
高橋陪夫　（宇宙航空研究開発機構）
近津博文　（東京電機大学）
中村孝之　（国土地理院）
藤野千和子　（日本写真測量学会）
布施孝志　（東京大学）
政春尋志　（東洋大学）
望月貫一郎　（（株）パスコ）
吉野邦彦　（東京大学）
力丸厚　（長岡技術科学大学）